

いちめんのなのはな

令和元年10月25日(金)

校長 鈴木 誠

みんなで作る学芸会

10月26日(土)に向けて

学芸会が、いよいよこの週末に迫ってきました。晴れの舞台に向けて、六ツ美中部小学校が一丸となって練習や準備に励んでいます。

中でも、6年生は大活躍です。自分たちの演目だけでなく、係として校内学芸会や学芸会を支える立場でもあるからです。他の学年が下校した後(学芸会の際には5年生も残って準備を手伝います)に会場の準備や係の打ち合わせに真剣に取り組む姿は、まさに六ツ美中部小の「エンジン」です。

校内学芸会に向けて準備や係打ち合わせに励む6年生 10/21(月)



幕間に歌とダンスで鑑賞に集中した心と体をほぐす会場係 10/23(水)



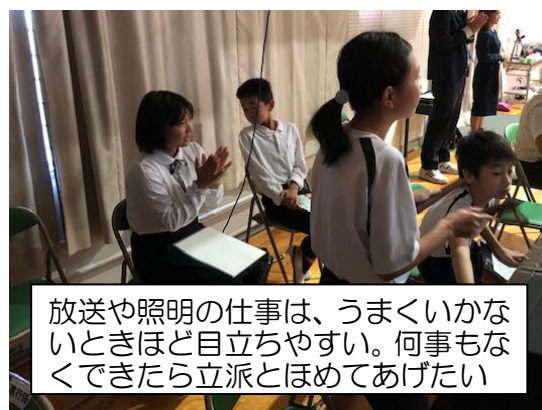
様々な活動を担う6年生ですが、校内学芸会のためだけの活動もあります。その一つが、会場係の幕間の活躍です。校内学芸会には、観られることを意識して舞台を踏む、観客から反応をもらって「間」を学ぶ、演者を盛り上げる望ましい観衆のあり方を考え学ぶ、などの意義深さがあります。一方で、長時間を飽かずに見ることは大変なことです。そこで活躍したのが、会場係です。その活躍で、幕間の体育館は歌とダンスで一つになり、鑑賞で緊張した心と体がほぐれました。

そして、すべての学年・学級に、下見の会からの大きな成長を感じた校内学芸会でした。

また、学芸会のために尽力するのは学校だけではありません。台風が多発するこの秋です。学芸会を暴風警報が見舞わないとも限りません。その際は10月27日(日)に延期することを検討したのですが、27日に神明社例大祭を予定する在家町総代さんも御理解くださいました。そのおかげでしょうか、**26日(土)に予定どおり実施**できる天気が予想されています。

皆様の御来校をお待ちしています。

放送や照明の仕事は、うまくいかないときほど目立ちやすい。何事もなくできたら立派とほめてあげたい



なのはな苑からお客様を招いて -校内学芸会-10月23日(水)

5年生の「総合的な学習の時間」での訪問などで交流したりお世話になったりする「なのはな苑」利用者の皆様が校内学芸会を参観くださいました。午後からの来校ということで、ちょうど交流のある5年生の演目からご覧いただけました。場面に応じた拍手や笑いで盛り上げてくださいました。ありがとうございました。



六ツ美中保育園の見学

-学芸会練習- 10月21日(月)

六ツ美中保育園の年長さんたちが、学芸会の練習を観るために来校しました。観られることを意識したためか、下見の会で見せてくれた笑顔やのびのびとした姿を発揮できない子もあつたようです。子供たちにとっては、緊張感のある練習をする貴重な機会となりました。こうした経験を糧に、よりよい演目を披露できることを信じています。



雲間からさす朝日に映える六ツ美中部小コーナー 10/19(土)

すてきがいっぱい!

-おかざきっ子展六ツ美中部小コーナー- 10月19日(土)・20日(日)

心配された雨の影響も少なく、おかざきっ子展が開催されました。早朝から中部小コーナーを訪れる御家族もあり、うれしく思いました。

何よりうれしかったのは、子供たちがのびのびとそして精一杯に自分らしい作品を作り上げたことです。そして、それに加えて、木曜日から土曜日にかけて降った雨から作品を守るためのPTAの役員・委員さん、そして先生方の努力が報われたことです。

風雨に強いことも意識して作品を構想する、完成した作品をニスなどでしっかり守る、当日まで大きなビニルシートで作品を覆い、それを当日の早朝に撤去するなどの努力がありました。中部小コーナーにはすてきがあふれていました。

通学団会 -学芸会に向けて- 10月18日(金)

学年によって登校時間が違うことに加えて、6年生が自分たちの演目だけでなく学芸会の係を務める関係で、学芸会当日の登校時間や誰と登校するかを確認するための通学団会を実施しました。中には低学年だけになる関係で、御家族の方に登校の引率をお願いするケースもあります。子供たちが安全に通学できるように学校としても努めています。御理解と御協力をお願いいたします。



連絡帳を持ち寄り、それぞれに登校時間と、一緒に登校する学年をメモする子供たち



朝会でお別れの挨拶をする実習生さんと、真剣に耳を傾ける子供たち

教育実習終了10月18日(金)

9月25日(水)に始まった教育実習が終了しました。4年1組の子供たちは、実習生さんの計画した体育科の授業で汗びっしょりになって伸び伸びと高跳びの練習をしたり、休み時間を楽しんだりしました。また、実習生さんは、職員とともにおかざきっ子展や学芸会の準備にも、精一杯に取り組みました。中部小での経験を糧に、実習生さんが素晴らしさに磨きをかけていくことを信じています。そして、実習生さんと過ごした日々が子供たちの育ちを支えることを願っています。